

体指よこすか

VOL. 8

平成22年 4月1日
横須賀市体育指導委員協議会
発行責任者 武 雅兄

第50回

全国体育指導委員研究協議会

山口大会に参加して

会場: 山口県スポーツ文化センターほか

平成21年11月19日(木)～20日(金)全国より3529名(内、神奈川県より 146名)の体育指導委員・事務局が維新公園内の山口県スポーツ文化センターに会し、全国体育指導委員研究協議会山口大会が行われた。横須賀市からは11名(武会長他、9名と事務局)が2日間に渡る研究協議に参加し、体育指導委員に求められる資質と目指す方向性について研修した。

1日目(11月19日)はスポーツ文化センター・メインアリーナでの、開会式・表彰式から始まりました。横須賀市からは、山田昭子氏(栗田学区)が文部科学大臣表彰を、磯部忠氏(森崎学区)が功労者表彰を、山田敏男氏(北下浦学区)が30年勤続表彰を受けられました。3名の方々の、永年にわたるご苦勞とご努力にお礼の言葉を贈りたいと思います。ありがとうございました。

記念講演は、講師にスポーツジャーナリストの増田 明美氏でテーマは、「自分という人生の長距離ランナー」です、内容として主に、山口県の文人の話と横浜国際マラソンの話や高橋 尚子選手と小出監督の話で終始して、テーマの話がほんの1分程度で終わり質疑応答の機会が無く残念に思いました。

シンポジウムは、コーディネーターに八代氏、シンポジスト山口・中村・南木の3氏でテーマは、「生涯スポーツ環境を、体育指導委員は、どのようにコーディネーターするか」と題してディスカッション



が行われ、主に明日の分科会の事前シンポジウムでした。

2日目(11月20日)は、
◇第1分科会「地域で創ろう、総合型地域スポーツクラブ」◇第2分科会「地域で高めよう、子どもの体力」◇第3分科会「次世代へつなごう、総合型地域スポーツクラブ」◇第4分科会「地域に広げよう、スポーツボランティア活動」の4つの分科会に分かれ、横須賀市は総合保健会館で行われた第2分科会に参加した。

サブテーマは「今の子どもの体力を高めるために、体育指導委員は何ができるのか」と題して3名のシンポジストの体験発表が行われた。

これからの子どもたちの体力を向上させるためには、体育指導委員の方は、アンテナを高くして地域に眠る人材を発掘する。またイベント等をきっかけとして、さらに人との繋がりを広げ共通理解を築いていくことが重要と思われれます。

編集委員 大貫 和雄(豊島学区)

第34回

よこすかシーサイドマラソン

平成21年11月22日(日)、三笠公園付近から観音崎大橋を舞台として、第34回よこすかシーサイドマラソンが開催されました。寒さと時折の雨により満足のいくコンディションではありませんでしたが、昨今のマラソンブームの影響もあり、5,000人もの精鋭達により熱き戦いが繰り広げられました。

体育指導委員はランナーが安全に走れるように走路誘導員としてコース上に立ちました。よこすかシーサイドマラソンは、横須賀青年会議所が中心となって開催しているマラソン大会で、ハーフ、10キロ、5キロ、親子の部の4部門があります。最長距離のハーフ部門では、三笠公園からスタートして、観音崎大橋で折り返すという、まさに、横須賀の海岸線を走破する雄大なコースとなっています。例年、7月末から9月末までの間に参加者を募集していますが、マラソンブームの影響もあり8月初旬には申し込みが定員を超えてしまいます。

大会会場では、ランナーの疾走、そして、親子の部では、笑顔で手を繋いで走る親子の微笑ましい姿が印象的でした。また、沿道からの熱い声援がランナー達を鼓舞していました。寒さの中で沿道に立ち続け応援する姿には、感動すら覚える心境でした。大会本部では、子ども達の可愛い踊りが会場を盛り上げていました。

マラソンは、己との戦いとも言われるように、競技としての純粋な順位だけではなく、タイムや完走も自己目標として設定できるスポーツです。自分の目標に向けて努力をすれば、ある程度の結果(健康)は必ず返ってきます。会社のノルマや競争至上主義とは違う、そんなマラソンはいかがでしょうか？



編集委員 大古 時正(久里浜学区)

「よこすか」の魅力
体感！実感！
「新港西スタート」

県体育指導委員研修会

平成21年11月23日(祝、月)大井町総合体育館(足柄上郡)にて「キンボール」、「ファミリーバドミントン」の実技研修が、県内体育指導委員 302名(横須賀市は武会長、鈴木副会長を含め5名)の参加で開催された。

体育指導委員の指導力等の資質向上及び各地域の情報交換を図り地域におけるスポーツ振興の発展に寄与するため、各種生涯スポーツ種目の指導法等の名のもと二種目の研修に参加した。

開会式終了後すぐに実技研修に入り 302名を二グループに分け各々30分程度の研修であった。多人数のため実技の時間は10分程度であり指導法をマスターするには少ない感じがした。

キンボールについては、私自身すでに2回の講習を受けていてあまり得るものはなかったが、まだ県内の市町村にはあまり普及されてなく体験者も少数であった。ルール、審判方法も過去の研修も含め多少の違いがあり、各市町村独自の考え方で実施されているようであり今後普及されるに従い統一化されるものと思う。



キンボールのコンセプト
「共遊」「主体」「創造」
オムニキン！ピンク

一方ファミリーバドミントンは初体験であった。コートはバドミントンダブルスコートでバドミントンのネットを使用し低くセットされている。シャトルはテニスボール大のスポンジに羽根が付いておりラケットもやや小さく打ち易いようになっている。まさしくファミリー向けスポーツの感があり、バドミントンを経験された方には物足りなさを感じることと思います。最後にこのような研修方式は各市町村参加者数を割当制にし、人数を絞り実技研修時間をもう少し多く取れるようお願いしたい。

企画研修部会副部長 高原 宏一(武山学区)

最後の県女性部会研修会

平成22年1月16日(土)横浜南スポーツセンターに於いて、神奈川県体育指導委員女性部会の研修会は、220名の参加のもと開催しました。



ディスク
ドッチビー
270

研修内容は、ドッチビー競技でした。競技は、バトミントンコートを利用して布製で出来たフリスビーです。

ルールは、1チーム13名編成ですが、参加人数の都合により20名で実施しました。

子供の頃、夢中になって遊んだドッチボールとほぼ同じで中に残っている人数で勝ち負けを決めます。

又、ナインゲッターフリスビー競技は、パネル当と輪通する2種目の競技でドッチビー共に研修しました。

残念ながらこの女性部会は、今回が最後になりました。今まで女性間の諸問題の話し合い及び交流の場として楽しみにしておりましたが。

これからは、研修部会に統合することになりました。



総務部部会担当 副会長 山田昭子(粟田学区)

三浦半島県下駅伝に参加して

平成22年1月17日 冬晴れの中、三浦半島県下駅伝競走は行われました。全長37.345 kmを5区間に渡り、市町村代表や、高等学校代表による選手で襷を繋ぎ、記録や記憶に残るレースを繰り上げました。

朝9時30分に横須賀アリーナ前をスタート、葉山～長坂～三崎口駅前～野比海岸を中継しつつ、ゴールは横須賀総合高校陸上競技場へ。

市町村代表12チームはもとより、高等学校代表9チームも大健闘しました！

道中ではデッドヒートも繰り上げられる中、今大会を制したのは、市町村の部は、平塚市A。1時間54分17秒。惜しくも2位には横須賀市A。3位にも横須賀市Bと大健闘。4秒後には平塚市Bチームも迫っていました。高校の部では、1～3位は全て大会新記録。加えて、優勝の藤沢翔陵高等学校は、4区を除き全て区間新記録。2位鎌倉学園、3位横浜高校。各選手にはこれから先の進路によっては箱根駅伝など全国区で活躍する人もいるだろう。大いに期待したい。よこすか体育指導委員約180名で走路員等務めお疲れ様でした。

三浦半島駅伝の写真

編集委員 原 暁彦(長浦学区)

県体育指導員大会に参加して

平成22年2月7日(日)藤沢市藤沢市民会館において「平成 21 度神奈川県体育指導員大会」が藤沢市長、神奈川県教員委員会教育局長、県指導員連合会会長・役員、県下体育指導員1,000 余名の出席のもとに開催されました。横須賀市からは、各学区より25名が参加しました。午前中はニュースポーツ体験としてカローリング・スポーツチャンバラ、昼食を挟んで午後は湘南ドルフィンズマーチングバンド(藤沢市消防音楽隊)の演奏が行われ、その後開会式や関係者の表彰が行われた。功労者表彰は、県下より140名、感謝状贈呈が3名の方に贈られた。横須賀市からは、功労賞5名、感謝状は中村前会長に贈呈されました。

基調講演は、「みる・する・ささえるワールドゲームズ」の題で桜美林大学大学院教授諸星裕先生のお話を聞きました。



中村前会長に高橋連合会会長より感謝状授与

ワールドゲームズは、オリンピック種目に入っていない、スポーツの開催で昨年(2009年)、台湾で開催された。

4年毎の開催で、次回2013年に行われ日本では、2001年秋田県で93カ国の参加で開催された。

招致は国ではなく県が呼び予算は12~15億円程度で競技参加者は、総数をオリンピック定員(1,000名)以下として、種目は、例えばトランポリン(個人・シンクロ)等で、大会の賞として、金・銀・銅メダルである

今回の講演で一考を投げられた点

- ・ オリンピックに余りにもお金をかけていないだろうか
- ・ オリンピックは政治的色彩が濃すぎではないか
- ・ オリンピック憲章はどこに行ったのか?

<受賞者一覧>

連合会感謝状

中村 栄治(前会長・岩戸学区)

功労者表彰

鈴木 宏(池上学区)

板橋健三(鴨居学区)

星 三郎(岩戸学区)

堀越勝巳(野比学区)

高原宏一(武山学区)

編集委員 押井 秀夫(鷹取学区)

横須賀・三浦地区フロック研修

「汗を流して交流しました！」

平成22年2月21日(日)に横須賀、逗子、三浦、葉山の体育指導員 65名が逗子アリーナに集まり「バウンズボール」実技研修を開催しました。

バウンズボールは、子供から大人まで、年齢、性別に関係がなく、だれでもできるスポーツで3人/チーム。専用ネットとバトミントンのコート程度の広さがあれば楽しむことができます。使用するボールは特製球で、やわらかいので突き指の心配もありません。ワンバンドしたボールを手のひらで打つので、恐怖心もなく、特別な用具も必要ありません。第二セットは楕円形の応用球でゲームをしましたが、どこ行くか予測も大変でコミュニケーションをとりながら一層楽しく行なうことができました。

12チームが参加したトーナメント戦の決勝戦は三浦A対葉山Bの対戦となり、最後の最後まで手に汗を握る試合を参加者全員で応援をしました。同じブロックの仲間がニュースポーツを通じて交流を深めました。機会を作り他の指導員にも紹介したいと感じました。



ワンバンドしたボールを1回で打ち返す
武会長ナイスショットプレー

編集次長 林 但(富士見学区)

浦賀学区の紹介

浦賀学区は浦賀小学校を拠点に12町内会・自治会で10名の指導員で活動しています。当学区は球技大会と児童ソフトボール・ミニバスケットボールと成人ソフトボールと学区スポーツの集いでは、キャッチング、ザ・ステック・ドッチピー等新しい運動を取り入れて行っています。この4行事をメインに地域では健民運動会、咸臨丸フェスタ、小学校体育館とグラウンドの開放調整と年二回小学校清掃活動を行っています。

今後、地域に根ざした活動を取り入れた行事を考えています。

又、市の行事と各町内会・自治会に積極的に参加していきます。



児童スポーツ大会



学区スポーツの集い

月 日	行事名	会場	参加者数
4月19日	新年度総会	浦賀コミセン	19名
4月25日	咸臨丸フェスタ	住友重機械	雨天中止
4月26日	社会福祉協議会児童スポーツ大会	光洋小学校	70名
5月10日	健民運動会	浦賀小学校	役員5名
6月7日	市・学区球技大会予選(成人ソフト)	浦賀中学校	70名
6月20日	市・学区球技大会予選(児童ミニバス・ソフト)	浦賀小学校	25名
7月26日	一般成人ソフト大会	浦賀中学校	50名
11月1日	社会福祉協議会ゲートボール大会	光洋小学校	役員1名
12月12日	6年生を送る会	浦賀小学校	30名
2月11日	学区スポーツ大会	浦賀コミセン	45名

尚、各行事前は、3回から4回程度役員会を実施しています。

編集担当 角田 高行(浦賀学区)

地区別体育指導委員交流会に向けて

平成21年度は、役員会を中心に、いろいろ新しい試みを行ってみました。役員会では、主管事業の運営を自分たちの手で考えたり、研修の種目を決めたりしてきました。最初は、地元の活動だけでも大変なのに何で協議会でやらなければならないのと不満そうな顔をしていた役員の皆さんも、平成22年度の事業計画を作成するに当たっては、もう少し人の輪を広げてやってみたらと発言するようになりました。

横須賀市の体育指導委員全員が、社会体育・ニュースポーツ・協議会の事業について考え行動するようになったら、どんなに素晴らしいことでしょうか？

平成22年度の新しい試みのひとつは、「地区別体育指導委員交流会」の実施です。

体育指導委員は社会体育を推進するに当たり、最も頼りになる存在だと思います。市内全域に散らばっていて地域に密着しているし、更に協議会という横断的な組織によって、情報スポーツ課関連事業のお手伝いをするだけでした。しかし、体育振興会会長会議や他市との交流会の中で、情報交換によって他の地域の行事や活動を見聞きすることの重要さを、ひしひしと感じました。そこで、平成22年度には、全市を「北」「中央」「東」「南」「西」の5地区に分け、体育指導委員の交流会(情報交換会・討論会・懇親会)を行うことにしました。役員が実行委員長・研修担当を務め、各学区の常任委員が実行委員となり、それぞれに地域の特色を生かした内容にしていく予定です。

他学区の情報を収集して地域の活動にいかすのはもちろんですが、複数学区共同で事業を行うことにより、

- ◎1学区では行えなかった大きな行事ができた
- ◎未然に失敗が防げたり
- ◎新しい活動ができた

するのではないかと考えております。平成22年度は結果を求めず、とりあえず実施することを目標にして、ワン・ステップアップしようと思います。できるだけたくさんの体育指導委員が、地区別交流会に関わってみてください

ひとりひとりが支える体育指導委員協議会を目指したいと思います

横須賀市体育指導委員協議会
会長 武 雅兄

【編集後記】

本号では平成21年度下期の行事を中心に概要をお知らせいたしました。全国大会や県大会・横須賀三浦地区の研修会、そして横須賀市の行事です。

横須賀市体育指導委員協議会ではプレゼンテーション力や企画力、コミュニケーション力向上の研修会の検討もしていますが、まずはみなさんも機会を作り近隣学区や市の行事に参加して見聞を広めませんか。

自分が変われば相手が変わる→相手が変われば心が変わる→心が変われば言葉が変わる→言葉が変われば態度が変わる→態度が変われば習慣変わる→習慣変われば運が変わる→運が変われば人生かわる(人生八変化: 作者不明)といわれるようにまずは行動を起こしましょう

広報編集次長 林 但(富士見学区)